

群 教 七	G02 - 02
	平25.251集
	小・社会

小学校社会科において 歴史的事象の見方や考え方を養う指導の工夫 —「くらべるシート」を活用し、 事象を比較・関連付ける活動を通して—

特別研修員 鈴木 賢太郎

I 主題設定の理由

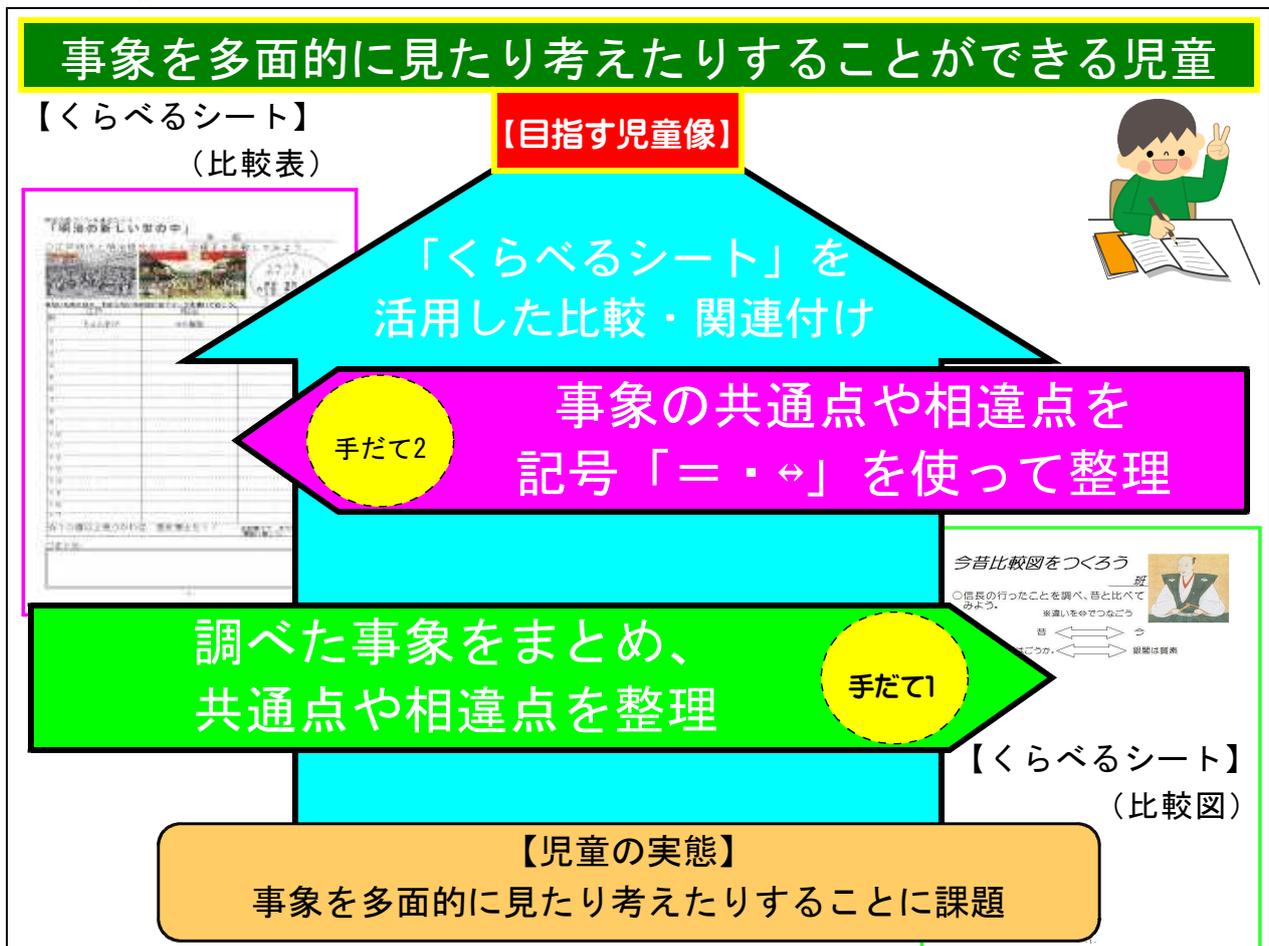
「はばたく群馬の指導プラン」では、社会科の課題と解決に向けて伸ばしたい資質・能力に「比較・関連付けて考え、社会的事象の特色や意味を理解すること」が明示されている。しかし、本学級の児童の実態を考えると、事象を一面的にとらえがちとなり、比較・関連付けて多面的に見たり考えたりすることに課題が見られる。

そこで、事象の共通点や相違点を視覚的に整理することができる「くらべるシート」を活用し、事象を比較・関連付ける活動を設定した。具体的には、資料から取り出した事象を学習活動に応じて比較図や比較表（本研究においては、「くらべるシート」）に整理する。整理した事象を比較・関連付けることで、共通点や相違点に気付くことができ、多面的な見方や考え方を養うことができると考えた。

以上のことから、「くらべるシート」を活用し、事象を比較・関連付ける活動をすることにより、歴史的事象の見方や考え方を養うことができると考え、本主題を設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手だて

単元「5 戦国の世から江戸の世へ 『安土城と織田信長』」(第6学年・1学期)において、「くらべるシート」を活用して、事象を比較・関連付ける活動を行った。

— 実践1における研究上の手だて —

○事象の共通点や相違点を整理するために「くらべるシート」を活用し、事象の比較・関連付けをする。

まず、個人で信長の業績を調べ、資料から取りだした事象を付箋紙に記入した。次に、共通点や相違点を整理するために「くらべるシート」を活用した。そして、「くらべるシート」を基にしてグループ内で意見交換を行った。最後に、クラス全体で信長の業績と信長以前の世の中の様子の比較・関連付けを行った。

実践では、事象の比較・関連付けを行ったことで、信長の業績と今までの社会の様子の共通点や相違点を整理することができた。児童からは、「信長は、今までと違う考え方をしていた」や「信長は、新しいことを取り入れて政治を行った」などの意見を聞くことができた。

しかし、取りだした事象が記入された付箋紙を「くらべるシート」に貼って、意見交換をする活動であったため、共通点や相違点を整理する視点が明確化できず、結果として、事象を多面的に見たり考えたりするまでに至らず課題が残った。

そこで、単元「7 明治の国づくりを進めた人々『明治の新しい世の中』」(第6学年・2学期)では、次のように手だてを改善した。

— 実践2における研究上の手だて —

○事象の共通点や相違点を整理するために記号を取り入れた「くらべるシート」を活用し、事象の比較・関連付けをする。

まず、個人で江戸時代と明治時代の町の様子の資料から分かったことを読み取る活動を行った。次に、共通点や相違点を整理するために「くらべるシート」を活用した。実践1の課題を踏まえ、共通点や相違点を整理する視点が明確化できる記号(=イコール・↔やじるし)を使って、グループ内で自分が考えた意見を発表し合い事象を整理をした。最後に「くらべるシート」を基にしてクラス全体で事象の比較・関連付けを行った。

実践1の考察を踏まえ「くらべるシート」を改善し、事象を比較・関連付けて共通点(=イコール)、相違点(↔やじるし)など記号を使って整理をしたことで、共通点や相違点が明確化され、多面的に見たり考えたりすることができた。

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

○ 資料から取りだした事象を比較・関連付け、共通点や相違点を記号を活用して「くらべるシート」に整理したことで、事象を多面的に見たり考えたりすることができた。

2 課題

- グループで一つのシートを活用して事象を比較・関連付けたため、特定の意見にまとめられてしまい、一人一人の意見を明確化することができなかった。
- 「=」「↔」の記号だけでなく、「?」などの記号も使うとより分かりやすく整理できた。
- 共通点や相違点の整理はできたが、事象を関連付ける見方や考え方に課題が残った。

3 「くらべるシート」のさらなる活用に向けて

○ 事象を比較するだけでなく、比較した事象の共通点や相違点をそれぞれ色分けをして整理し、関連付けを行うなど、シートの活用方法をさらに検討していく必要がある。

IV 実践及び改善の実際

実践 1

1 単元名 「5 戦国の世から江戸の世へ 『安土城と織田信長』 (第6学年・1学期)

2 本単元及び本時について

本単元は、織田信長・豊臣秀吉・徳川家康の3人の武将の働きによって全国が統一され、家康の開いた江戸幕府が参勤交代、鎖国などを行い、身分制度を確立させて、安定した武士の政治が行われるようになったことを理解することが目標である。本時は10時間計画の第3時にあたり、織田信長が新しい考えを取り入れて全国統一を目指したことについて、信長の業績と、それ以前の社会の様子を「くらべるシート」にまとめる活動を取り入れ、比較・関連付けることにより、信長は新しい考え方を取り入れていたことが分かることをねらいとしている。

3 授業の実際

導入では、長篠の戦いの様子と江戸のまちの様子を資料を提示し、資料を比較して共通点や相違点を確認し、気付いたことを発表した。児童からは、長篠の戦いの絵図では、「戦いをしている」、「戦いでは鉄砲を使っている」、「たくさんの兵士がいる」などの意見が述べられた。また、江戸のまちの絵図では、「江戸のまちは人がいっぱいいる」、「戦いをしていない」、「にぎやかそう」などの意見が述べられた。そして、二つの資料の共通点や相違点を確認して、二つの時代の間にはどんなことが起こったのかを予想した。予想では、「信長が戦いを終わらせた」、「全国統一した人がいるんだ」などの意見が述べられた。これらの意見を受けて、学習課題を「信長はどのようなことを行い、全国統一を目指したのか考えよう」と設定し、まず、個人で信長の業績を資料から読み取り、自分の考えを付箋紙に記入する活動を行った。その後、グループ内で自分が考えた意見を発表し合い、信長の業績と今までの社会の様子との違いを考える活動を行った。

事象の共通点や相違点を整理するために「くらべるシート」を活用し、 比較・関連付けをする様子

T: 資料を見て付箋に書いたことを、グループ内で発表してみましよう。

S1: 信長は戦いに鉄砲を使っていたことが分かりました。

S2: 信長はキリスト教を保護していました。

S3: 城下町ではいろいろな人が商売をしていました。

S4: 信長は安土城を築きました。

S1: もうこれ以上は分からなかったよ。

T: 考えが浮かばなかった子はみんなの意見を参考にしてくださいね。

S2: まだ調べたことがあるよ。信長は室町幕府をほろぼしました。

S4: ぼくもまだあるよ。信長は大量の武器をそろえていました。

S3: そうだよ、たしか堺っていう場所だったよね。

S4: おおきな商業都市を支配して資金を集めて、武器を買ったんだよ。

S1: ありがとう。みんなの意見を参考にさせてもらうよ。

T: では、これからグループで「くらべるシート」を活用して、信長が行ったことに対して、今までの社会の様子はどうだったのかを考え、対応させてシートに記入しましょう。

S1: 信長は火縄銃を使って戦っていたけれど、それまではどんな戦い方だったかな。

S2: 戦いの時は、今までは刀や槍、弓を使って戦っていたよね。

- S3： そうだったよね。戦い方は今までとは違っているね。
- S4： じゃあ商売のことを考えよう。信長はだれでも商売ができるようにしたけれど、それまではどうだったかな。
- S3： 室町時代は、たしか座に入っている人たちしか商売できなかったんだよね。
- S1： ああ、そうだったね。
- S2： 商売の様子も今までとは違っているんだね。
- S4： じゃあ次だね。信長は安土城を建てたけど、武士はお城が作られたりする前はどんなところに住んでいたのかな。
- S1： 鎌倉時代は武士はやかたに住んでいたんじゃないかな。
- S2： そうだよ、やかたに住んでいたんだ。
- S4： 住むところも変わったね。
- S3： じゃあ今度はキリスト教の布教を認めたことを考えよう。
- S4： 今までは、仏教しかなかったよね。
- S1： そうだよ、昔はみんな仏教を信じていたよね。
- S3： これも考え方が変わったんだね。
- S2： これで信長のしたことと、それまでの様子が比較できたね。
- S1： シートにまとめて比べてみると、信長は新しいことをたくさんしていたことがよく分かったね。

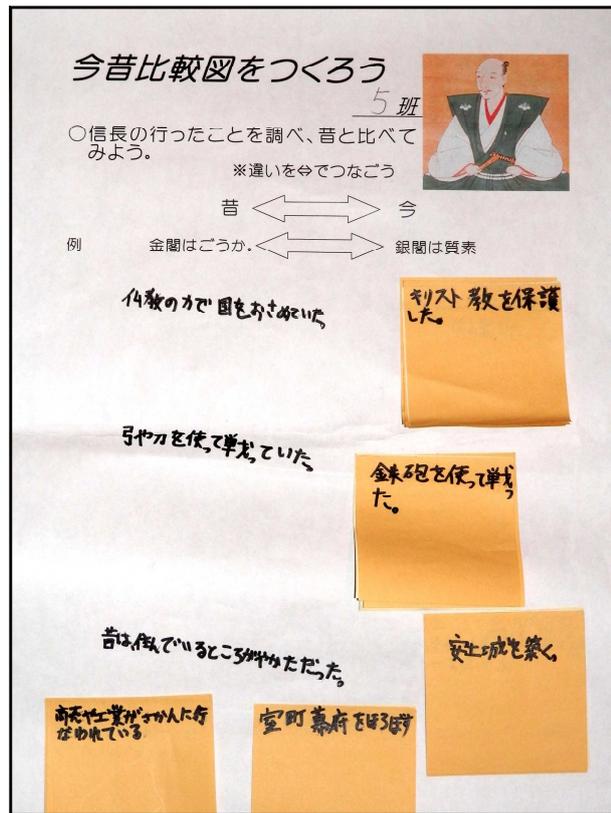


図1 「くらべるシート」の記入例

まず、付箋紙に自分が調べたことを記入した。その後、共通点や相違点を整理するために「くらべるシート」（図1）を活用し、グループで意見発表を行った。あまり考えが思い浮かばなかった児童も、友達の意見を聞いて考えを共有したり、新たな考えをもったりすることができた。

その後、グループで信長の業績と今までの社会の様子との違いを考える活動を行った。それらの事象の比較・関連付けを行ったことで、信長の業績と今までの社会の共通点や相違点を見付けることができた。また、グループごとの意見発表の後の振り返りでは、児童の中から「信長は今までと違う考え方をしていた」、「信長は新しいことを取り入れて政治を行った」という意見が出てきた。その後の全体のまとめでは、「信長は今までとは違う新しい考え方を取り入れて全国統一を進めていった」というまとめを行った。

4 考察

付箋紙に自分の考えを記入したことで、多くの児童がいくつか自分の考えをもつことができた。それを基に、グループで事象の共通点や相違点を整理するために「くらべるシート」を活用し、比較・関連付けを行い、共通点や相違点を明らかにした。「くらべるシート」を使って、グループで考えをまとめたことで友達とも考えを共有することができた。また、児童の逐語録からは「シートにまとめて比べてみると、信長は新しいことをたくさんしていたことがよく分かった」という意見が聞かれたので、手だてが有効に働いていたと考えられる。しかし、グループで一つの「くらべるシート」を作ったため児童一人一人に学習の足跡が残らなかった。また、調べた事象を並列に対応させて書くなど「くらべるシート」の活用方法を明確化しなかったため、共通点や相違点を整理することができず、多面的な見方や考え方を養うまでには至らなかったことが課題として挙げられる。

実践 2

1 単元名 「7 明治の国づくりを進めた人々 『明治の新しい世の中』(第6学年・2学期)

2 本単元及び本時について

本単元は、日本の近代化の様子について、欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことが理解できることを目標としている。本時は7時間計画の第4時にあたり、「くらべるシート」を活用し、資料から明治の新しい世の中と江戸時代の様子を調べ、グループで事象の比較・関連付けを行い、共通点や相違点に気付き、それを記号を使って整理する活動を行い、文明開化によって人々の生活に変化が現れたことを表現できることがねらいである。実践1の考察を踏まえ、「くらべるシート」を活用し、事象の比較・関連付けをする活動では、共通点や相違点を分かりやすくするため記号を用いて整理することとした。

3 授業の実際

導入では、寺子屋の様子と明治の学校の様子の写真を提示し前時までを振り返り、町の様子はどうか変わったか予想した。児童からは「学校の様子も変わっているから、きっとほかもいろいろ変わっているよ」という意見が多く聞かれた。これを受けて、学習課題を「明治時代になって人々のくらしはどのように変化したのだろうか」と設定し、江戸時代と明治時代の町の様子の絵図から読み取り、分かったことを「くらべるシート」に記入する活動を行った。さらに、明治時代になって生活で変わったことを調べ、明治時代と江戸時代、平成時代(今)とを比較・関連付けた。その後、グループ内で自分が考えた意見を発表し合い、お互いの意見を交換する活動を行い、記号を用いて整理する活動を行った。

事象の共通点や相違点を整理するために記号を取り入れた「くらべるシート」を活用し、事象を比較・関連付ける様子

T：シートを見て、調べたことを発表してみましょう。友達の見聞も参考にできるといいですね。

S1：明治時代には新聞ができたよね。今も新聞はあるよね。江戸時代は何かあったのかな。

S2：江戸時代は「かわらばん」という何か大きな出来事があった時に出る新聞みたいなものがあったよ。

S1：そうなのか。「かわらばん」というんだ。分かった。ありがとう。

S3：明治時代には日傘をさしている人がいたけど、江戸時代はいたのかな。

S4：いなかったかなあ。

S3：じゃあ、江戸時代のところは「×」が入るのか。

S2：明治時代にはランプがあるよね。今は電気だよ。江戸時代には何が入るか分からなかったんだけど、分かった人いるかな。

S1：私も分からなかったんだ。

S3：江戸時代の明かりはろうそくじゃないか。

S2：そうか。ろうそくだ。ありがとう。

S4：枠があると調べたことが横に並ぶから、分かりやすくなるね。



図2 意見交換する児童の様子

T：発表ができたグループは、「くらべるシート」を活用し、記号を使って共通点は「=イコール」、相違点は「⇔やじるし」で表してみましょう。

S1：江戸時代の乗り物は馬だけど、明治時代は馬車になっていたね。

- S2：今の時代の乗り物は自動車だよ。
- S3：じゃあ江戸と明治は違うから、記号は「⇔やじるし」の記号で表せばいいね。
- S4：江戸と平成のところも「⇔やじるし」で表せるね。
- S1：じゃあ新聞はどうかなあ。
- S2：江戸と明治は違うから、記号は「⇔やじるし」の記号になるのかな。
- S4：そうだね。じゃあ明治時代と今はどうだろう。
- S1：今も新聞は毎日来るから、明治と平成は「=イコール」の記号が入るんじゃないかな。
- S3：じゃあ今度は食べ物の比較を考えよう。
- S2：江戸時代は和食、明治時代は洋風の食べ物が出てきたから、「⇔やじるし」が入るかな。
- S3：今はどうだろう。
- S4：今は洋風だけじゃなくて、様々な食べ物があるから、やっぱり明治時代と今のところは「⇔やじるし」が入るのかな。
- S1：次、電話はどうだったんだろう。
- S4：江戸時代は、電話はないから「⇔やじるし」だよ。
- S2：そうだよ。今はもちろん電話はあるよね。
- S3：じゃあ、明治時代と今はのところは「=イコール」の記号が入るね。
- S4：やっぱり記号を付けると同じなのか違うのかがよく分かるね。
- S1：そうだね。記号を付けてみると江戸時代と明治時代は違うことがいっぱいあるよね。

※ないものには×、わからないものには？マークを書いておこう。

	江戸	明治	平成(今)
例	ちよんまげ	⇔	今の髪型
1	X	⇔	日かき
2	馬	⇔	馬車
3	和服・着物	⇔	洋服
4	寺子屋	⇔	学校
5	ろうそく	⇔	ランプ
6	井戸	=	井戸
7	かわらばん	⇔	新聞
8	X	⇔	電話
9	和食	⇔	和・洋
10			
11			

図3 記号を活用した「くらべるシート」の記入例

「くらべるシート」に自分の考えを記入した後、グループで意見交換を行った(図2)。「くらべるシート」を活用したことで、意見を発表する際にも自分の意見を再確認することができた。その後、さらにグループで事象の共通点や相違点を記号(「=」、「⇔」)で整理する活動を行った(図3)。その結果、事象の共通点や相違点を見付け記号を使って整理することができた。グループごとの意見発表の後の全体での振り返りでは、「くらべるシート」を確認してみると、多くの児童の中から「江戸時代と明治時代は相違点が多いが、明治時代と平成時代には共通点が多い」という意見が出され、江戸時代と明治時代では生活の様子に変化してきたことに気付くことができた。全体のまとめでは、「文明開化によって、西洋の文化や考え方が多く取り入れられ、平成時代(今)に近くなってきた」というまとめを行った。

4 考察

実践1の考察を踏まえ、今回は時代ごとに調べたことを並列に並べ、記号を付けることができるようシートの改善を行った。意見交換の様子からは「枠があると調べたことが横に並ぶから、分かりやすくなるね」という意見が聞かれたので有効であったと考える。また、調べたことを比較・関連付ける活動では共通点、相違点を整理するため記号を用いた。児童からは「やっぱり記号を付けると同じなのか違うのかがよく分かるね」、「記号を付けてみると江戸時代と明治時代は違うことがいっぱいあるよね」という意見が聞かれた。このことから、今までは一つの時代の事象しか見ることができなかったが、手だてを講じたことで江戸時代と明治時代という二つの時代を多面的に比較・関連付けることができたと考えられる。以上のことから、「くらべるシート」を活用して事象を比較・関連付け、共通点や相違点を記号を使って視覚的に整理したことは、歴史的事象を多面的に見たり考えたりする力を養うのに有効であったと考えられる。